

## はじめに

2014年度も新カリキュラムと旧カリキュラムが並存しており、また体系的な学習ができるように履修年次の明確化を進めた。そのためか、若干ではあるが、受講生の科目履修登録に混乱が残った。幸い、担当者の柔軟な対応によって、受講者の不利になるようなことにはならなかったものの、引き続き丁寧な履修指導を実施する必要があるように思われる。

2013年度は図書館実習を履修する学生がゼロであったが、今年度は3名の希望者があり、愛媛県立図書館において2名、松山市立中央図書館において1名が図書館実習に臨んだ。2週間という短い期間ではあったが、実際に図書館業務を経験し、図書館職員の方たちの仕事ぶりを具にみた経験は大変貴重なものであったことが実習生のレポートからうかがうことができる。

2014年度の松山大学図書館情報学講演会は、講師に東京外国語大学学術情報課長の茂出木理子氏を迎え、「公共図書館と大学図書館の連携協力～大学図書館の地域貢献～」という演題で開催した。その開催趣旨は次のようなものであった。

「公共図書館は地域における課題や様々な利用者に対応した高度で多様なサービスの提供や高まる住民の学習活動を支援する機能を充実させるために公共図書館同士のみならず他の機関との積極的な連携に努めることが必要とされている。一方、大学図書館においても大学の地域貢献・社会貢献の一翼を担う組織として地域に貢献する重要性は繰り返し指摘されているという（中略）状況を踏まえた上で、新たな視点から公共図書館と大学図書館の連携協力について考えてみたい。」

趣味が「掃除とプレゼンテーション」という茂出木氏は、繰り返し「図書館とはなにか？」と問いかけつつ、公共図書館と大学図書館について様々な背景事例を紹介し、今後の連携の考え方を「連携のため3つのポイント」で示された。本号に講演記録と講演資料を掲載しているので、是非ご覧いただきたい。

司書課程及び司書教諭課程の授業を担当していただいていた非常勤講師の青野文敏先生が、2014年度一杯で退職されることになった。先生は、2010年度から司書教諭課程の科目を担当していただき、また、2012年度からは司書課程の科目も担当していただいた。このたび規程により退職されることになったわけであるが、これまでのご尽力に感謝し、今後とも、ご健康でご活躍されることをお祈り申し上げたい。

2014年度から、司書課程及び司書教諭課程に3名の新任の方々をお迎えした。おひとりは、郡司教授の後任として、司書課程の専任教員となられた片山俊治氏である。片山氏は長く大学図書館の運営に携わってこられ、とくに図書館職員の養成・研修については幅広い知見と経験を持っておられる。

それから非常勤講師として来ていただくことになった児童サービス担当の吉見八重氏と

司書教諭課程担当の山田暢子氏は、それぞれ児童サービス、学校図書館について豊富な経験をお持ちである。

3方ともその経験と知見を授業に生かしていただくことが期待されたが、実際に初年度から存分に力を発揮されたと思っている。

司書・司書教諭課程では、このように人員の体制が整いつつあるなかで、今後さらに教員同士の意思の疎通や情報共有・発信環境の整備ならびに教材の充実等をすすめ、科目全体の内容向上を図っていきたいと考えている。

2015年8月24日

司書課程特別主事

早瀬均